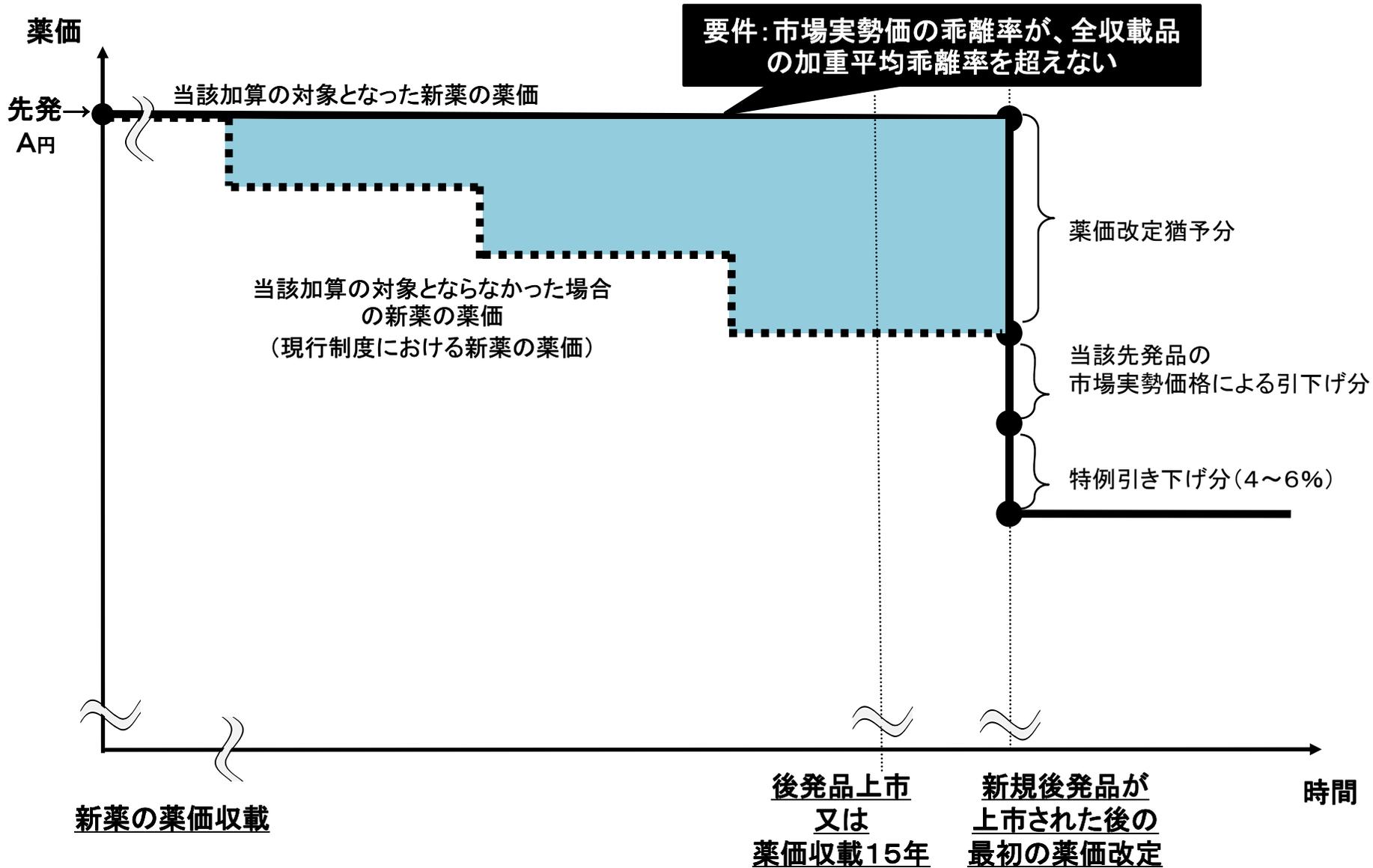


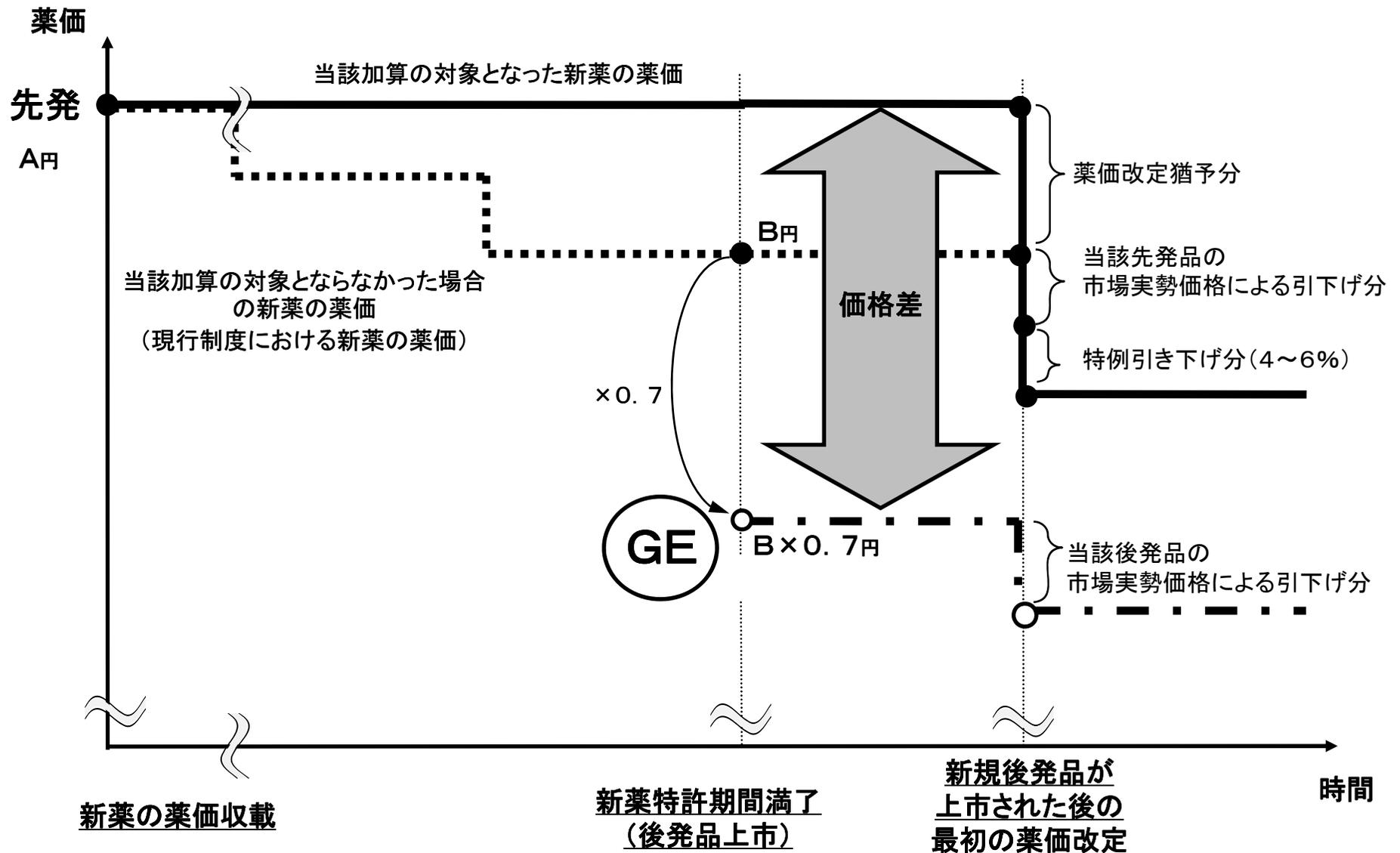
特許期間中の新薬の薬価改定について

(資料編)

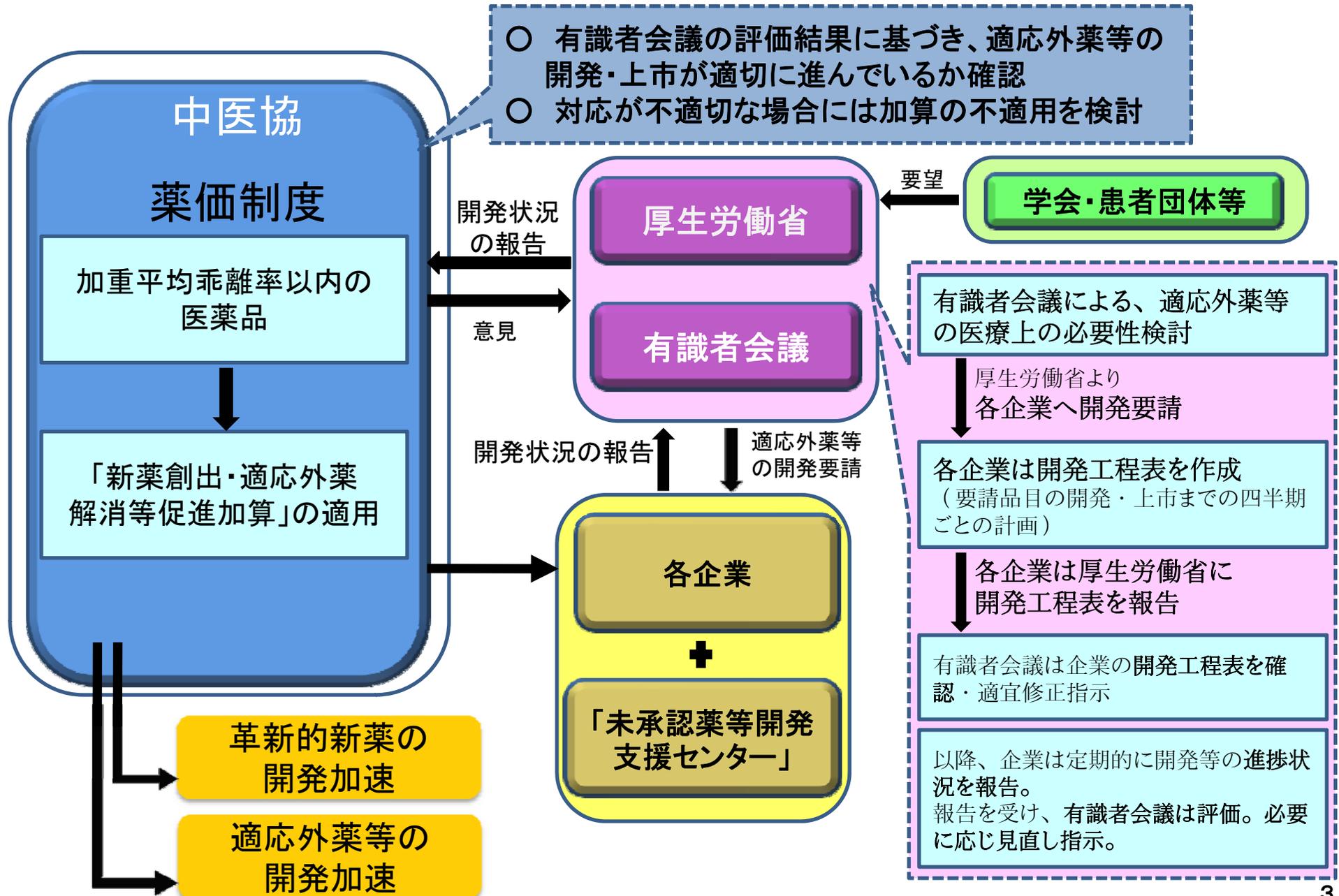
新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象となる **新薬の薬価算定** の例



新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象となった新薬に係る後発品の薬価算定の例

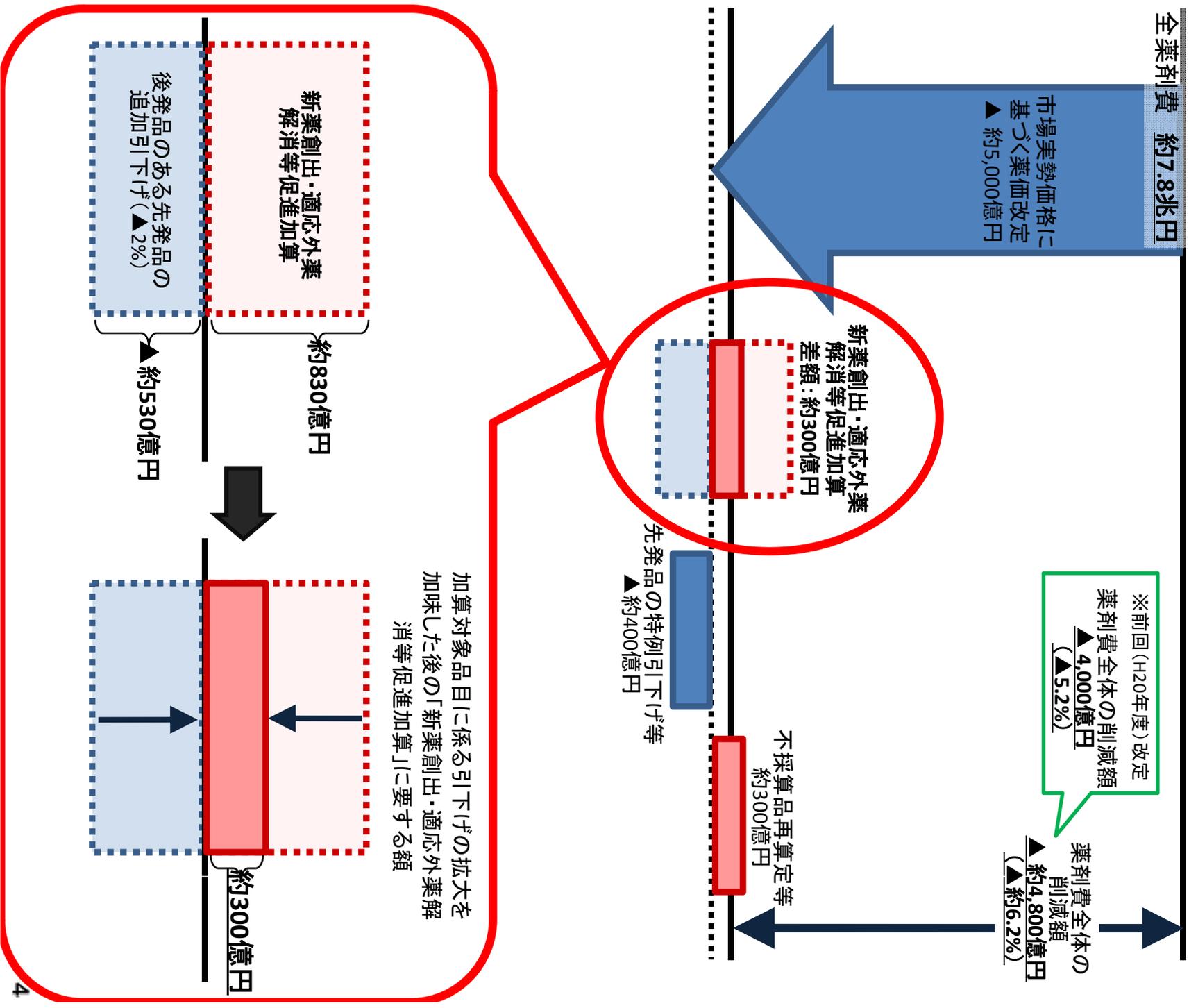


今回の制度導入による適応外薬等の開発促進スキーム

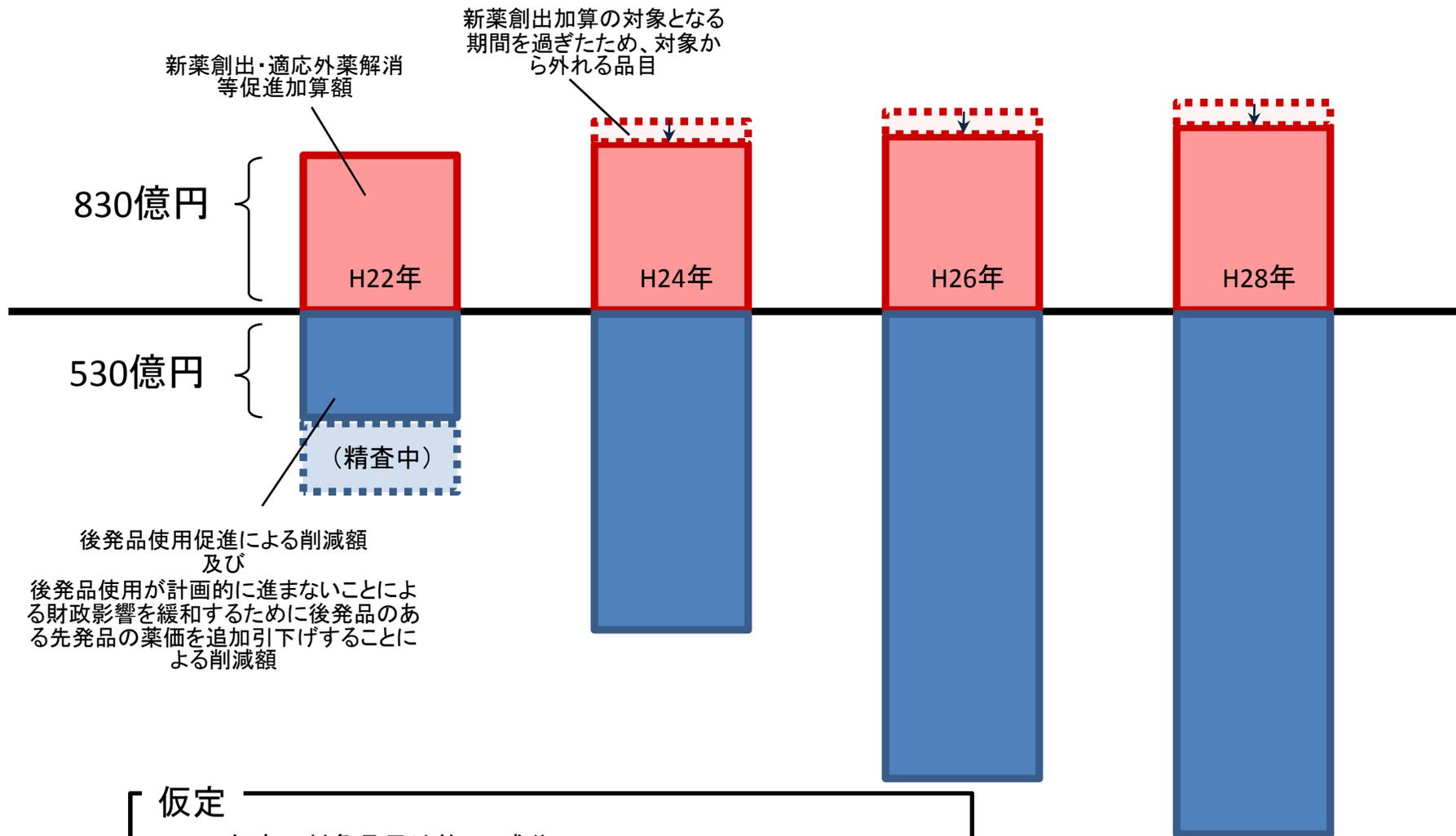


平成22年度薬価改定の見込み

(詳細な金額については精査中)



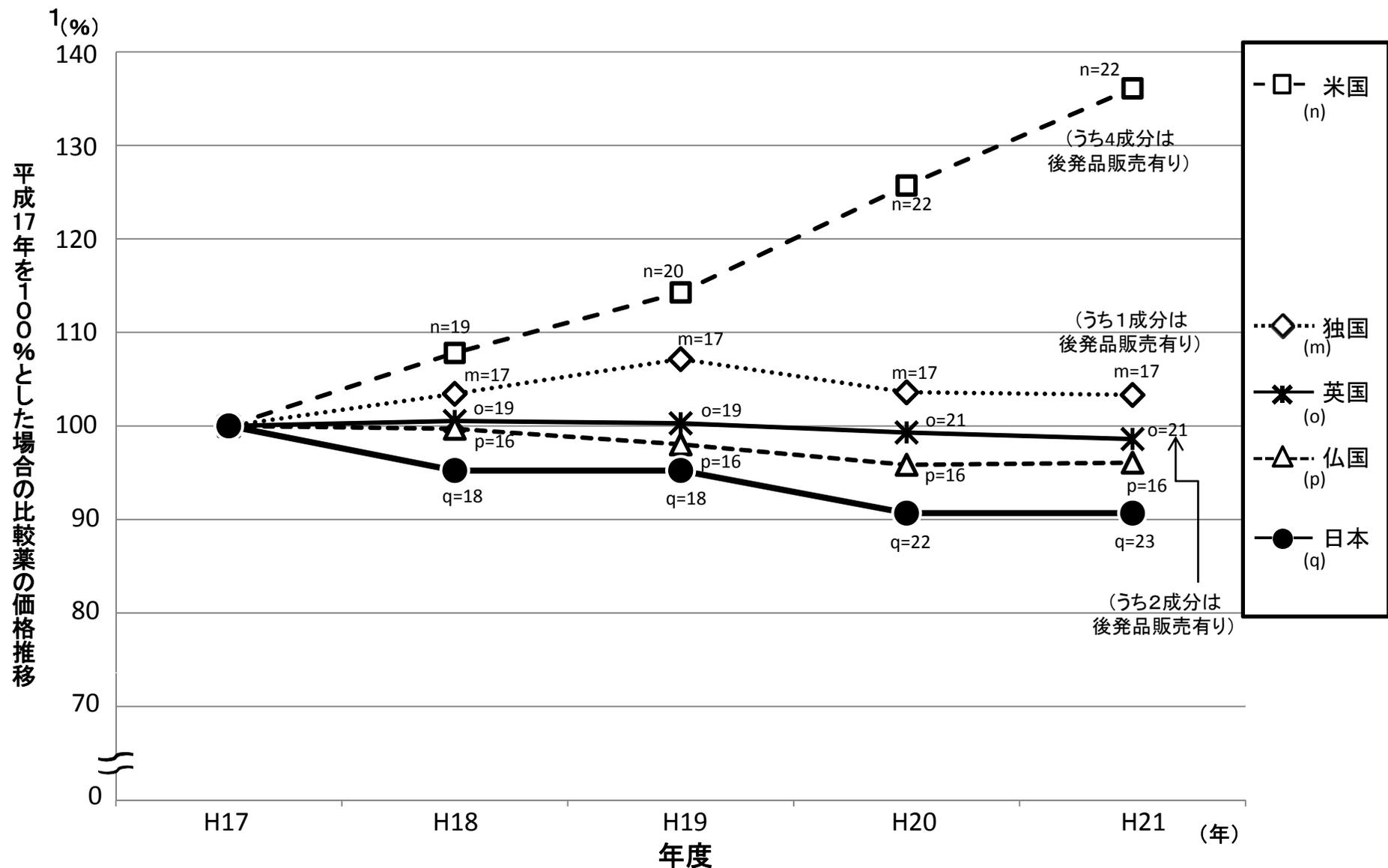
新薬創出・適応外薬解消等促進加算導入による 財政影響のシミュレーション(予測)



仮定

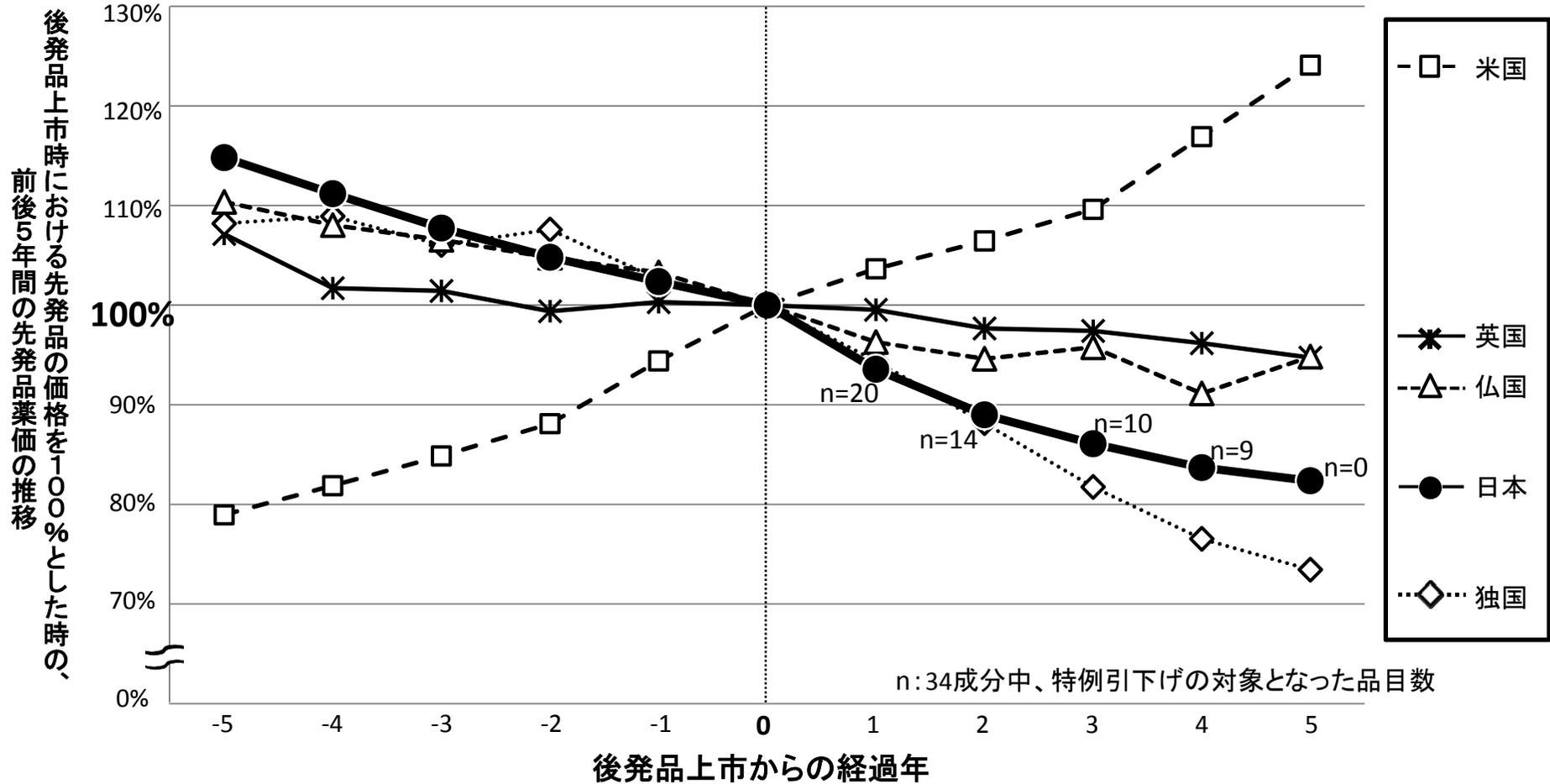
- * H22年度の対象品目は約350成分
- * 対象品目の期間は最長15年(毎年、15分の1が対象期間を過ぎる)
- * 新薬は毎年約70成分が新規で掲載され、およそ半数が対象品目
- * 全薬剤費等の条件についてはH21年度の数値を利用

類似薬効比較方式により算定された新薬(平成20年4月～平成21年9月収載分)の新薬算定時の比較薬に関する直近5年間の日本と欧米4ヶ国の価格推移



○平成21年9月18日 中医協薬価専門部会提出資料「中医協 薬-4」の調査データから、平成17年の価格を100として、各国毎の価格の年次推移をプロットしたもの

後発品が初めて上市された先発品の 前後5年間における日本と欧米4ヶ国における価格の推移



- 平成14年度から平成17年度に日本で初めて後発品が薬価収載された新薬を対象とした(対象成分数:N=34)。
- 日本では、後発品収載後、市場実勢価格による引下げに加え、約6~8%の特例引下げを実施している。